

公開特許公報

特許願

昭和47年4月7日

特許庁長官殿

1. 発明の名称

吸入口への排気噴出による気流循環式排気掃除器

2. 発明者

出願人に同じ

3. 特許出願人

住所 〒236-0044 神奈川県横浜市港北区大口町4丁目1番38-10613
氏名 藤川 喬

4.添附書類の目録

1) 明細書 3通

2) 図面 1通

⑪特開昭 48-101764

⑬公開日 昭48.(1973)12.21

⑭特願昭 47-35351

⑮出願日 昭47.(1972)4.8

審査請求 未請求 (全2頁)

庁内整理番号

7214 34

⑯日本分類

9201D101.4

47 035351

方式(1)

明細書

1. 発明の名称

吸入口への排気噴出による気流循環式排気掃除器

2. 特許請求の範囲

ファンを回転させ生む正圧側排気と塵埃の吸入口ケース内部に噴出させ、負圧側の吸塵器置にて塵埃の収集を行なう気流循環式の排気掃除器。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、在来の排気掃除器の、排気と室内空気の汚濁を解消し、且つ、清掃能力を強化するものである。

いま、四面について説明すると、モーター(2)は、逆(1)側へ回転させ、排気室(1)下正気圧が生じる。この正気圧を正気経路(7)を通じ、正気吹出口(9)より噴出させる。また、逆(1)側、吸入口ケース(8)内部に導通した塵埃を含む空気は、集塵器(4)内部の負気圧下逆(1)側、吸塵経路(6)を通じ、吸入口(5)から吸い出され、集塵器(4)内へ収集される。塵埃のみ、吸引され、空気は扇の回転によって排気室(1)に現れ、再び同一経路を循環する。

在来の排気掃除器に於ては、集塵器の、微細な塵埃を含む排気を室内へ放散し、室内の空気を搅乱させ

る。其に、部室内に、ホルツ等を置いたりして、衛生的に又、非常に有害であった。

本発明は、この有害な排気を室内へ放散せず、圧縮空気の噴流にして、吸入口ケース内部で、吸清掃面へ向けて吹き出される。従って、掃除中の室外への排気が無くなる為に、上記の有害な欠陥は解消されるのである。

次に、効果について、原動力に対する吸塵効率の上昇と、清掃力の増大強化が挙げられる。即ち、従来の吸塵経路内の気流は、扇の回転により作られる扇圧の上に依り、集塵器置に向って吸引されていた。本発明によれば、在来の負圧下逆(1)側に逆(1)側へ、吸入口ケース内に吹き出され、下正気圧の吸塵経路と共に、正圧にして強く為に、回路内の気流の速度を増し、吸塵力を強め、効率の上昇に大きく寄与するものである。

又、従来、吸込側の、管外の気流は、単純な一向向性に止まる為、静止・定着している塵埃、気流の渦に巻き込まれて、困難が伴うが、本発明によれば、吸入口ケース内への、正気吹出口(9)から噴出する気流は、一定の方向を有する。勢の強、一定の方向を有する、吸清掃面に定着して、この塵埃等を容易に旋轉させ、効率が高まる。こうして浮遊して塵埃は、容易に、集塵器へ吸引される。尚、加圧の為に、モーターの、排気側の位置にファンを増設しても良い。

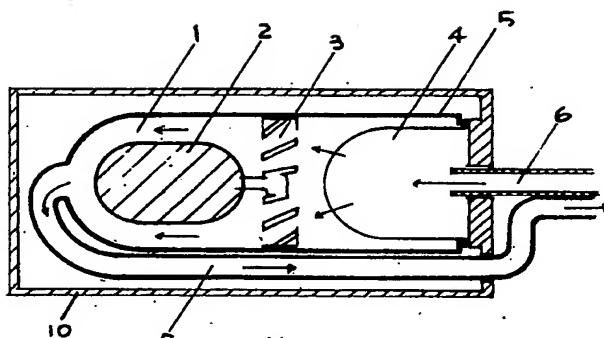
四面の簡単な説明。

第1図は、掃除器本体の縦断面図

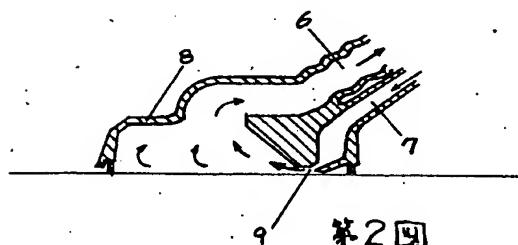
第2図は、吸込斗ケースの横断面図である。

- (1) 排気室
- (2) モーター
- (3) フィルタ
- (4) 集塵室
- (5) 気密ケース
- (6) 吸塵経路
- (7) 正圧気経路
- (8) 吸入口ケース
- (9) 正圧気吹出口
- (10) 本体外部ケース

図中の矢印は空気の流れを表す。



第1図



第2図